

講演

現代リスク理論の広がり～破産理論を中心に～

早稲田大学理工学術院 教授 清水 泰隆

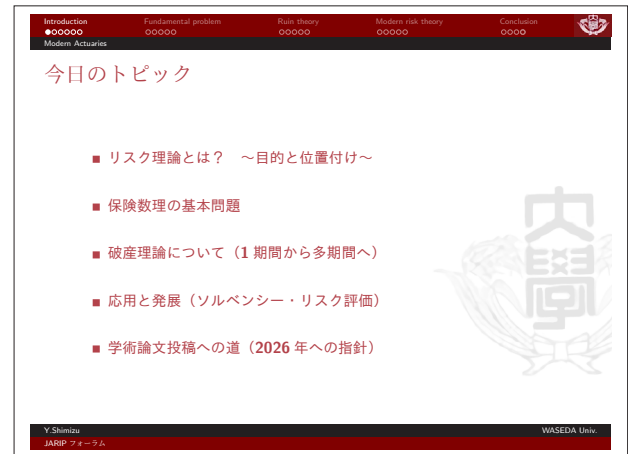
JARIP フォーラム・日本アクチュアリー会研究集会 2018年1月13日

ご紹介にあずかりました早稲田大学の清水と申します。どうぞよろしくお願いいたします。基調講演ということで、私が基調講演をしていいのかという、ちょっと僭越な思いもあるのですが、なんとかやらせていただきます。

分の話が展開されています。アクチュアリー会員の方々は数学がとても好きな方ばかりだと思いますので、今日は生保、年金、損保の話が後でありますから、バランスを取って、このような分野の話があるのもいいかなと思って話をさせていただきます。



私は元々は数理統計の研究をしているのですが、ここ10年ぐらいですか、保険数理にも興味を持って、学術的なところで研究をしています。それで、話は現代リスク理論ということなのですが、保険数理というと、普通は年金とか生保、損保などという分野に分かれています。その中でも、もう一つの分野と言ってもいいと思うのですが、リスク理論という分野があります。リスク理論は、例えばアクチュアリー会の教科書など、損保数理の教科書などに入っていたりするので、一般的には損保数理の分野かなというように認識されていたりもすると思いますが、損保に限らず、一般的にリスクをどう評価するかというような、非常に数理的な部



今日の話ですけれども、最初にリスク理論とは何かということで、目的とか、学術界でどのような位置づけなのかという話をしたいと思います。リスク理論というのは、皆さん、アクチュアリー試験の時に少し勉強をされたという程度で、あまり実務ではお目にかからないという話も聞くのですが、実は、アカデミックには現在でも結構盛んに研究されていて、国際学会の半分とはいえないのですが、大半がリスク理論にかかわるような発表をされているということ、後で少しお話をします。それから、保険数理の基本的な問題は何かということで、簡単な数理的定式化を通して破産理論というものについて少し述べます。今日の目的としては、あ